



## プレスリリース

令和6年度草の根・人間の安全保障無償資金協力：

エレバン市超音波診断能力強化計画 供与式の実施

エレバン：令和8年2月10日

令和8年2月10日、草の根・人間の安全保障無償資金協力「エレバン市超音波診断能力強化計画」(供与限度額:72,830米ドル)の供与式が、エレバン市のアルメニア共和国母子保健・周産期医療・産婦人科学研究所において開催されました。本式典には、青木豊駐アルメニア日本国大使とラズミク・アブラハミヤン研究所代表が出席したほか、本研究所医療関係者が出席しました。

本事業は、同研究所の超音波診断能力を強化するため、新たに超音波検査機器1台を整備することを目的としています。本事業の実施により、年間約10,950人の妊婦(ナゴルノ・カラバフからの避難民約1,500人を含む)が最新の超音波機材で検査を受けられるようになります。これにより、異常の検出、適切な治療方針の決定、最適な分娩方法の選択が可能となり、地域住民および避難民の母子保健の向上に大きく貢献することが期待されます。本研究所への支援は平成30年度「エレバン市性感染症妊婦出産支援のための医療機材供与計画」に続き2度目の支援となります。さらに、本研究所へはJICAが平成18年に「リプロダクティブヘルスプロジェクト」を通じて医療機材支援を行っており、当時供与された保育器は現在も低体重児のケアに活用されています。

アブラハミヤン研究所代表は、「日本が初めて当研究所を支援してからちょうど20年が経ちました。この度、再びアルメニアの周産期医療に対し日本からご支援いただけたこととなり、深く感謝しています。今回供与いただいた医療機器は、日本国民の皆さんへの感謝の気持ちを胸に、大切に活用していく」と謝意を述べました。また、青木大使も、「本事業を通じて、妊婦の皆さまが適切な分娩方法で出産できるようになり、エレバンの子どもの出生率が上がり、元気な子どもたちの声が今以上に響き渡る日が来ることを期待しています」と祝辞を述べました。



祝辞を述べる青木大使



謝辞を述べるア布拉ハミヤン研究所代表



医療関係者との記念撮影



本事業で供与された超音波検査機器